大阪より「香川」へ

◇

去る十月十九、二十日の兩日大阪の[illegible]で開かれた[illegible]中央委員會に出席する。この會合は[illegible]ある。[illegible]

かせようとけしかけられた二三の[illegible]があるが、新黨反對どころか[illegible]現實の口の字も出さずに、會議は終りとなつた。どこかのブルジョア[illegible]

[illegible]

この事であらう。中央委員に[illegible]

[illegible]

◇

を立つて四國に向つた、

初めて見る瀬戸の朝景色を賞でゝ、二十二日午前七時半高松に着く、O君の家は、おぼろに[illegible]きいてゐるだけでどこに行くべきか全くお先き眞つくらだ。何でも坂出と云ふ町の近所と云ふので午前九時坂出驛の一つ手前の[illegible]に降りた。[illegible]

[illegible]

(竹尾生)

金解禁問題に就て（二）

大塚　衛

（二のつゞき）

金解禁のため如何なる結果が生じるかにつき、こゝに一つの例證として、具體的な例を引用しよう。英國は一九二五年四月に金解禁を斷行した。その結果は何うなつたか。物價は下落し、貿易は低下し失業者は増加し一九二六年に入りて不景氣の度は一層深刻の度を加へて來た。殊に炭坑、紡績、造船業等に打撃著るしく、遂に工場を閉鎖するもの續出し、失業者の洪水を來たし、英國財界の前途に一抹の暗影を投ずるに至つた。その結果は、我々の記憶に未だ新なる一九二六年五月に勃發した・[illegible]のゼネラルストライキとなつ[illegible]

へられたものである。この經濟的の大勢は永年英國が握つてゐた世界經濟の中心たる勢力を遂に米國に奪はれる一動機とさへなつたのである。

三

我々は金解禁が、無產大衆に及ぼす影響の莫大なることを既に述べた。しかしそれは既に金解禁が斷行された時の話である。我々は更に進んで今日の財界は、現平價金解禁より生ずる打撃に耐ふるだけの實力があるか否かを吟味しなければならぬ。近時、金解禁即行を主張するものは、日本の財界も大恐慌しつゝあるから、この機會[illegible]

今日の財界は消極的の小康を得てゐる。しかし、それは金輸出禁止といふ人爲的落葉の上における小康である。この財界はかゝる金輸出禁止の基礎の上においてのみ辛うじて存續し得てゐる多數の中小銀行および會社があることを、忘れてはならない。現實の安定を得

（昭和四年六月末日現在）

全國交換所組合銀行（約四百行）預金總額	に對する	五大銀行（三井、三菱、住友、安田、第一）預金總額	の割合　二五％
全國信託會社（三十七社）金錢信託總計	に對する	四大信託會社（三井、三菱、住友、安田）金錢信託總計	の割合　七〇％

註―交換所組合銀行以外の地方小銀行を合すれば日本に約千四百銀行があるが、その總預金に對する五大銀行の預金の割合も前掲の數字と太した變りないと考へらる

てゐる銀行會社は、大資本が擁する極少數に過ぎないことを、注意しなければならない。試みに金融界に就いて見るも、現在金融は緩漫で資金が溢れてゐるといふ。しかし、その資金は次の如く僅かに數個の金融大資本家に獨占されてゐるに過ぎない。

かくの如き状態は、獨り金融界のみならず、總ての產業に共通してゐる。之を總括的に言ふならば、今や日本の經濟界は極めて少數な[illegible]

[illegible]

は果して恐慌を防止し得るであらうか。

◇

試みに昭和二年四月の金融界の恐慌を回顧せよ。昭和二年の我が[illegible]

[illegible]

迫害に抗して
青森補選終る
聽集四千を動員し
我黨七百餘票を獲得

[illegible]

差押

[illegible]

投票

[illegible]